

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会

第4回会議 会議録（要旨）

1 日 時

平成29年1月18日（水）19：00～20：30

2 場 所

函館市総合保健センター2F 健康教育室

3 出欠状況

メンバー：酒本メンバー，京谷メンバー，寺田メンバー欠席

部会運営担当：函館市医療・介護連携支援センター）高柳，佐藤，長谷川，川村

事務局：市介護保険課）小棚木課長，京野主査，前田主任主事

4 議 事

- (1) 多職種連携研修会の詳細および役割分担について
- (2) 次年度以降の研修テーマについて
- (3) 研修情報の一元化と提供の方法について
- (4) 「函館市在宅医療・介護連携マップ」の活用について

5 会議の内容

小棚木医療・介護連携担当課長

ただ今から，函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会の，第4回会議を開催させていただきます。前回の会議でも確認いたしておりますが，この会議は原則公開により行いますので，ご了承願います。

次に，第3回の会議録についてですが，事前に各メンバーの皆様にご確認をさせていただきました。事務局の方には，特に修正のご意見がございませんでしたので，原案どおりで，第3回会議録を確定させていただき，明日，市のホームページ上で公開させていただきたいと思っておりますが，よろしいでしょうか。（異議なし）ありがとうございます。それでは原案どおりで第3回の会議録を確定させていただきます。

本日欠席の方ですが，北村メンバーが遅れて見えられるということでご連絡いただいております。山村メンバーも遅れて見えられるとのこと。その他ですけれども，酒本部長，包括連協の京谷さん，訪リハ連協の寺田さんが，本日は欠席されるということで連絡をいただいております。

それでは次に，本日の資料の確認をします。机上の資料でございますけれども，出席者名簿と座席表のほかに，当日配布資料と致しまして3つの資料をお配りしております。

一つ目はタイトルが「多職種研修会参加取りまとめ状況」としまして，各団体から何名が参加予定で，といった一覧の資料が1枚。

二つ目は、タイトルが「多職種研修会当日スタッフ役割要領」という資料がございます。

三つ目、カラーの図案でございますけれども、タイトルが「6 関係職種の紹介」と紫色のタイトルが付いているもの、こちら退院支援分科会で作成しております連携ガイド、こちらの関係職種の紹介部分を抜粋したページになっております、こちらの資料が1枚ございます、以上が、本日の当日配布資料として机上にお配りをさせていただきました。

事前にお送りさせていただきましたのは、会議次第、資料番号1から6までの資料を送付してはりましたが、本日、お持ちでない方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。それでは本日の会議の議事の進行につきましては、皆様の特段のご配慮をお願いいたします。

また、本日は、酒本部長が所用により欠席をされております。代理の座長と致しまして、副部長であります中村副部長に座長をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

中村副部長

ただ今ご指名をいただきました中村です。一応、まだ1月なので、皆さま新年明けましておめでとうございます。それでは早速次第に沿って進めてまいります。

議事(1)になります、多職種連携研修会の詳細および役割分担について、幹事の方から説明願います。

高柳幹事

皆様おぼんでございます、幹事の高柳です、どうぞよろしくお願い致します。早速ですが、資料1が議事項目のレジメ形式の資料となっております。(1)の議事につきまして、説明させていただきます。資料1の1ページをご覧ください。

(1)多職種連携研修会の詳細や役割分担についてです。アの詳細資料についてですが、資料2になります。資料2をご覧ください。

1ページ目、こちらが研修概要書の最終版となります。

次の2ページ目が、当日のタイムテーブルとなっております。記載のとおりではありますが、研修会終了後の懇親会の開始時刻が、当初18時となっております、こちらが17時30分に変更となっております。

続きまして3ページ目、スタッフ分担表となっております。

5ページから7ページが、司会者の進行読み上げ原稿です。こちらに関しては1箇所訂正がございます。7ページの懇親会の時刻、先程も申し上げましたが、17:30に訂正をお願いします。

8・9ページが、グループワークに関するお願いとなっております。10ページ目は、グループワークで使用する具体的な事例となっております。11ページは、グループワークで使用する模造紙の元図となっております。12ページ目は、研修会の次第です。最後13ページがアンケートとなっております。

次に、資料1の(1)のイ、当日の作業部会メンバーの役割分担についてです。資料2の3ページ、スタッフ分担表をご覧ください。

タイトルの右側に、コアメンバーの名前と、各団体名が記載されております。団体名の下に数字は、当日各団体からお手伝いとして選出していただく人数となります。その下の○印

がそれぞれの役割となっております。

時刻の下、事前準備とありまして、その右側に参加者名簿、グループワーク席順、名札作成、資料作成、模造紙作成とありまして、高柳に○、センターに○となっております。事前準備の担当は、高柳とセンター3名が行うということになります。以下、時系列で、11:30の集合から懇親会までの役割の記載となっております。

当日お手伝いいただく方々への詳細につきましては、本日追加配布資料の「多職種研修会当日スタッフ役割要領」になります。こちらを、当日の11:30に集合していただいた際のオリエンテーションで、係の方々にご説明する予定です。

次に(1)のウ、ファシリテーター会議の開催についてですが、居宅連協、MSW協会、包括連協の3団体より、各10名ずつご選出いただきましたので、1/26(木)に、函館市医師会病院の5階講堂で開催予定となっております。

次に(1)のエでございますが、出席者名簿の取りまとめ状況です。概要書におきましては参加人数が、見込みで約250名となっておりますけれども、現時点で270名の参加申し込みとなっております。参加者の取りまとめ状況を、当日配布資料としてお配りしておりますのでご確認いただきたいと思います。

以上でございます。研修概要と役割分担などについて、一括してご協議をお願いしたいと思います。

中村副部長

はい、ありがとうございます。懇親会の時間変更、変更はそれだけですね、内容に関しては皆様お手元にある資料のとおりとなっておりますが、役割分担表というか、そのあたり、どうでしょうか。大体、大丈夫でしょうか。

司会の原稿の方も、高畑さん大丈夫でしょうか。

高畑：訪看連協

大丈夫です。

中村副部長

はい、益井さんお願いします。

益井：鍼灸マッサージ連携会

細かいですが、函鍼連なんですけれども、場内資料、名札準備ということですが、3ページのスタッフ分担表なんです、資料を机に配付するように並べるということですか。実際の仕事としましては。それともうひとつ、場外誘導開始の「場外」のイメージがつかないんですが。

中村副部長

以上2点でよろしいでしょうか。

長谷川幹事

まずですね、資料の方は、グループワークのテーブルに封筒に入れて準備しておくことにしていましたので、会場のセッティングがされたら、そこに、席に配置していただきたいと思います。

益井：鍼灸マッサージ連携会

それを、机の上に並べてということですね。

長谷川幹事

そうですね。あと、場外誘導開始の「場外」、ちょっと書き方が悪かったですが、場外にいらっしゃる方を、会場の方に案内していただくということです。

益井：鍼灸マッサージ連携会

会場外から会場内にというわけですね。

長谷川幹事

はい。

益井：鍼灸マッサージ連携会

もう1点、名札準備とありますよね、名札を付ける方々というのは、どういった方々になるんですか。

長谷川幹事

グループワークに参加される方は、テーブルの方に準備しておくということなので、グループワークに参加される方の名札です。

益井：鍼灸マッサージ連携会

これは、グループワークの机の上に置くということですね。

中村副部会長

そのあたりの具体的な行動説明は、集合した時にあるんですか。

長谷川幹事

11:30に、係の方に集合していただいた時に、この「要領」をご説明する予定でした。

中村副部会長

はい、船山さん。

船山：実務者協議会

資料2の3ページの役割分担のタイトル、私たちは、地域連携実務者協議会の「地連」と

いうところなのか、それともイカリングの「イカ」なのか。

長谷川幹事

すみません、イカリングの「イカ」です。「地連」は包括連協でした。

船山：実務者協議会

私たち「イカ」で。

中村副部長

ということでよろしいでしょうか。ほか何かありますか、はい、高畑さん。

高畑：訪看連協

訪問看護ですけれども、高柳幹事の講演の資料ありますか。

高柳幹事

資料の最終版はまだできておりません。

高畑：訪看連協

当日はその場にあるのか。

高柳幹事

当日はあります。

高畑：訪看連協

それと、グループワーク2つ目が終わってから、20分間の発表の時間では、どこのグループを選出するのですか。

長谷川幹事

まだ今の段階では、グループ分けをしている段階なんですけれども、どこのグループにお願いするのかということに関しては、コアメンバーさんと一緒にこれから考えたいと思っています。

中村副部長

よろしいでしょうか。ほか何かございませんでしょうか。はい、齋藤さん。

齋藤：老施協

道南老施協の齋藤です。スタッフ分担表ですけれども、老施協2名ということで、私とあとは参加者1名お手伝いで、ということなんですけれども、どちらかというと、スタッフ側にいるというイメージでいいですかね、参加者側というよりも。

例えば、グループワークとか、事例発表の時とかも、あと事前にちょっと席を立てて動い

た方がいいということですかね。

佐藤幹事

2名のお手伝いをお願いしているのですが、齋藤メンバーはグループワークに入らない形で、考えていただければと思っていました。もう1名の方はグループワークに参加の方でグループ分けに入っておりますので、グループワークに入っただいて大丈夫です。

写真撮影をお願いしておりますので、グループワーク中であつたり、講演中であつたり、そういったところを、お願いしております3団体の方々の中で相談しながら、あの、携帯で構いません、すいません、写真を撮っていただけたらと思っております。

齋藤：老施協

わかりました。

高畑：訪看連協

訪問看護からのお手伝いは受付だったんですけれども、今のお話聞いていて、途中で会場に入っても大丈夫でしょうか。

長谷川幹事

大丈夫です。

益井：鍼灸マッサージ連携会

グループワークの時、皆さん席についているじゃないですか、我々はどのような状況で、例えば壁際に立っているとかが、どんな状況でたたずんでいけばいいのでしょうか。

長谷川幹事

椅子は準備していただくことにしていましたので、それが、グループワークのテーブルになるのか、端の方に椅子を並べていただくのかは、これからのホテルの打ち合わせがあるので、そこで検討させていただきたいなと思っていました。立ちっぱなしではないです。

中村副部長

S Pのように立っていただいていた方がいいでしょうかね。

齋藤：柔道整復師会

柔道整復師会です。人数ですが全体の参加者が12名で、グループワークが10名、懇親会が12名で申し込みしていたんですが。

長谷川幹事

メンバーの齋藤さんが、事務局の方の人数に入っているのですが、この表記が11名になっているだけですね。トータルの人数は大丈夫です。

中村副部長

北村さんが到着されました。今、資料2の役割分担表を見ていました。
これ、お昼ご飯はどうなるんですか。

佐藤幹事

各自で、すいませんがお願いします。少し早く来ていただく形にはなるんですが、大変申し訳ありませんが各自でご用意いただければと思います。

中村副部長

お弁当の発注とかは受けないんですか。

佐藤幹事

そこまでは。

中村副部長

わかりました。

水越：薬剤師会

受付の件なんですけれども、結構、薬剤師関係はですね、土曜日にも仕事をしているので、私ごとで申し訳ないんですけれども、13:30まで絶対に抜けられないので、14:30頃までに来る予定ですが、受付がいらっしやらなくても、来た人が会場に入れますでしょうか。

長谷川幹事

大丈夫です。センター職員が外で待機していることになっておりますので。

中村副部長

当日に関しては、集合してから打ち合わせがまたあるということなので、具体的にはその場でお話ししていただけることも多いかと思います。

益井：鍼灸マッサージ連携会

前もって、グループワーク、懇親会のリスト、名簿があるじゃないですか、あれが例えば直前で何か都合が悪くなって、その代わりに違う人間が行くとか、そういうことは可能ですか。

長谷川幹事

名札が、前日までにご連絡いただければ差替えることは可能です。

益井：鍼灸マッサージ連携会

それであれば可能だということですね。

中村副部長

人数も結構なボリュームで。ただ、全体数は多いんですが、協議会ごとの人数というのがやはり少ないので、益井さんのいうことも、ごもっともかなと思います。

ほか、当日の流れで何かありますか。

それでは、この議事に関しては、今のご意見を反映させていただきたいと思います。

議事の（２）に入っていきたいと思います。（２）次年度以降の研修テーマについて、幹事の方から説明をお願いします。

高柳幹事

資料１の（２）の議事、「次年度以降の研修テーマについて」につきましてご説明いたします。

「ア これまでの研修テーマについて」ですが、２７年度が入退院支援、２８年度が連携、としてまいりました。次年度のテーマを制定するにあたりまして、資料３の第１回研修会参加者からの意見と、資料４の部会メンバーからのアンケートを反映させたものとして、研修計画案を策定いたしました。

次に、レジュメの２ページ目のイについてですが、次年度のテーマを相互理解といたしました。医療と介護をシームレスに提供するためには、医療や介護の関係多職種が日頃からお互いに知り合っている、顔の見える関係が重要であり、多職種が相互の機能の理解や役割分担を通じ連携するためには、そのような取組を行うことが必要だと考えられる、その際、異なる職種間での相互理解を促進するためには、どのような手立てが有効と考えられるのかを視点としております。

①医療・介護関係者に対する研修ですが、（ア）多職種連携研修としまして、ポツの一つ目が、各団体の協力を得ながら、関係多職種が幅広く参加する比較的大規模な研修、複数会場での同時開催も検討、ポツの２つ目が、顔の見える関係づくりを目的として、研修終了後に懇親会を開催、ポツの３つ目が、研修内容に関しまして、講義形式、参加型などを検討、となっております。

（イ）医療関係者への介護に関する研修、介護関係者への医療に関する研修、職種を絞り、５０人程度の比較的小規模な研修の複数回実施を検討。例としまして、医療関係者に対しましては、介護保険制度の概要、介護保険で提供されるサービスの種類と内容、ケアマネジャーの業務、地域包括ケアシステムを推進するための取組など。介護関係者に対しましては、各医療機関の機能の相違などへの理解などです。

（ウ）センターの役割の周知・啓発につきましては、ポツの一つ目、上記の（ア）または（イ）と組み合わせての実施を検討、ポツの２つ目、函館市における医療と介護の連携の現状と、問題意識の解説、ポツの３つ目、連携におけるセンターの役割の解説、ポツの４つ目、センター職員による説明（出前講座形式での対応）。

②でございますが、市民への普及啓発と致しまして、ポツの一つ目が、地域住民向けの在宅医療と介護の関わりに関する解説や講演、ポツの２つ目、センター職員による説明、出前講座形式。

論点としまして、平成２９年度研修計画案について、（２）の議事につきましては以上でございます。平成２９年度の研修計画案について、ご協議をお願いします。

中村副部長

はい、ありがとうございました。

それでは、平成29年度研修計画の案につきまして、ご協議いただきたいと存じますが、前回、この資料3にございます、今後実施してほしい研修内容のテーマ、入退院支援というところで執り行った。今年度につきましては、連携、そして、一番多かった相互理解というものに関して29年度は取り組んでいきたいと、こういうセンターの趣旨でございます。

2ページ目には、その具体的な取り組み内容として、多職種の連携研修であったり、あとは、小規模な医療関係者、介護関係者への研修、それから、センターの役割の周知啓発を目的としたもの、あとは市民への普及啓発というようなところでのお話しがございました。

いかがでしょうか皆様、テーマの設定に当たっては、色々ご意見もあると思いますが、この、昨年度から実施してきました研修内容のアンケートに基づいたというところでは、非常に納得できるのではないかなと思いますが、皆様のご意見の方、ございませんでしょうか。

岩井：歯科医師会

今年の研修のテーマが連携で、来年度が相互理解。どこが違うのかというと、連携して、さらにそれが深まった段階で相互理解、もっとそれぞれが、お互いのことを知ろうということだと思いますので、テーマとしても非常に良いのではないかなと思います。

相互理解というテーマにして、どのような研修を行っていけばいいのかということを考えていけばいいという風に思います。

中村副部長

ありがとうございます。相互理解と一言で申しましても、今回のこの連携の研修会も、まさに相互理解の研修会でありましょうし、実際、具体的になってくるとなかなか、難しい部分もあると思うのですが、何か皆様の方でひらめきがございませんでしょうか。こういうものがいいのではないかとか。 はい、高畑さん。

高畑：訪看連協

訪問看護です。すごく、相互理解にね、皆さん関心があるのだなというところで、これはやはりテーマにしていった方がいいのだろうなと思いますし、今までも何度も、医療から介護、介護から医療の、それもいいよねという話も出ましたし、あとは、病院からなかなか出てくれないというところで、その大きな病院を場所にするといいよねというの、出ましたよね、あとはそれぞれ、コンパクトに30分なりで、お話しをした後で、やはり、参加型、皆さんにも参加していただく時間も入れて、あまり長くないようなもの、そしてこのセンターのことについてもPRできるように、やはりそういうのも織り交ぜながら、色々な場所でやっていくという風に、これ全体がまとまったような感じですけども、そういう研修が望ましいのかなと思っております。

中村副部長

はい、ありがとうございます。

どうでしょう皆さん、ここに集約された内容がほとんどだなというご意見かなと思うので

すが、ただ、(ア)ですね、多職種連携研修というところで、規模の問題で、(イ)は50人程度の小規模ということですが、この(ア)の研修会に関しましては、やはり皆様のご協力がなければできないものになってくると思うのですが、1回目、2回目と関わらせていただきまして、参加させてもらいまして、これやっぱり、年1回くらいのものになっていくのかなという風に思うのですが、どうでしょう、皆さん。はい、水越さん。

水越：薬剤師会

丁度、回数のお話が出ましたので、前に本間先生も仰っていたんですけども、この研修をするのにあたって、まず、年に何回できるかという、費用的なものも含めて、予算のことも含めて言われていたかと思うのですが、それがあるので、何回もできるものではない、各団体で、研修はかなり行われている状況ですからね、薬剤師会でいえば、多職種連携についても開催させていただいたりはしておりますので、大きいものはやはり、多くても2回やれるかどうか、だと思ふことでいいと思ふんですけども、小規模に関しては、逆にその小規模をどのようにやるかというところもあると思ふですよ、相互理解ということでやるとなると、やはりそれは聞いてみたいと、参加してみたいという話、必然的に出てくるものから、ちょっと、考えながら、やっていければなという風に思っております。

ただ、新たに地域包括ケアとして加わった鍼灸師の会の方々とか、周知がされていないので、周知がされていないのは、薬剤師会の方も周知がされているかどうかはちょっと疑問なんですけれども、でも、周知されていないというところでもあると思ふので、なるべくちょっとこう、言い方はアレですけども、ちょっと新しい取組でやっていただけたらいいと思ふんですけども。

中村副部長

はい、ありがとうございます。はい、益井さんお願いします。

益井：鍼灸マッサージ連携会

大変良いテーマだと思います。そして①のAの多職種連携研修、というところですが、この多職種連携研修って、比較的やっていないわけではないと思ふんですね、今年が連携、そして相互理解となつたうえで、多職種連携の研修会を、じゃあ、どういう風にやろうかと、やり方が問題になってくるのではないかと思ふので、ひとつ、案としてなんです、宮崎大学だったかな、吉村先生というドクター（事務局注：吉村学（宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授））がいらっやって、この先生が、「ごちゃまぜIPE」といいまして、多職種が集まった中で、色々な職種がいますよね、何人かグループに分けて、その中には医師がいたり看護師がいたり、鍼灸師がいたり、色んな、歯医者さんがいたり、歯科衛生士さんがいたり、色んな業種が集まると、そこで、自分の職種に関して色々意見をいうのではなくて、「役」を作るんですね、だから、お医者さんが患者さん役になったり、鍼灸師がドクター役になったり、薬剤師さんが歯医者さんの役になったり、その中で、何歳で、こういう病気で、こういう病歴で、家族構成で、こういう場合、それぞれの役になった先生方は、どういう風にその患者さんに対して、医療・介護を進めていくかという話し合い、これが「ごちゃまぜIPE」といって、実際やっているところもあるんですけども、こうすると、非

常に、知らない職種の気持ちがわかったり、患者さんの気持ちがすごくわかったりするということで、すごく好評だと、というような研修の仕方があるので、この辺をひとつ、もう少しやりかたとして、いいのではないかなと思っておりました。

中村副部長

はい、ありがとうございました。先日うちの協議会でも、琉球大学から招いてやってもらったんですけども、近い形で、各々に配役があって、やったんですけども、本当に、自分と違う職種の立場になるというところでは、得るものが非常に多かった研修でした。そのあたり、参考にしてもらえればなという風に私も思います。

ほか、何か皆さん、はい、船山さんお願いします。

船山：実務者協議会

多分、今の時期のタイミングで私がいうべきことではないと思うのですが、確かに相互理解のテーマでやるというのはすごい良いことだと思うんですけども、研修会のやり方自体がですね、1回目、2回目、多分3回目も同じようにやるんでしょうけれども、何かこの3回目の内容を見ていると、本当に今年だけでいいのかとか、なんとなく、今後やっていくなかで、4回目何やる、5回目何やるという風に決めるのではなくて、何かこう、体系だてたものを、例えば作ってしまっただけですね、毎年同じものをやる、繰り返してやると、当然、これから医療も介護も需要がありますから、新しい新人の方が増えたりとか、場合によっては3年目、4年目というところに、こういう会に出してあげるといような、何かそういう受け皿的な研修会をここで考えて、カリキュラムにしてしまうというのも、ひとつの考え方だと思うんです。

なんとなくこの、来年何やるとなった時に、なんかこの、連携、相互理解、またなんかという形になって、確かに1回1回考えながらやるのも楽しいのかもしれないですけども、せっかくこういう会で集まったのであれば、ちょっと、教育カリキュラムのような感じで作ってですね、それぞれのコマで、うまい形でやれば、毎年、その内容を少し作りなおしていくという形にした方がですね、何か今の、例えばここにあるかどうかかわからないですけども、それに出たら、何かしらの、医療・福祉・介護の連携の何か認める認定証を出すとか、それをもって、取ることで自分が、それを動機にするだとか、ひとつなのかなと、まあ、今の時期ではちょっと言えないですけどね、こういう考えもあるのかなと。

中村副部長

実は私もこの前のコアメンバー会議でそういうようなことを言いませんでしたか。

というのは、あの、新人が増えて、人が変わって、結局作り上げたものがゼロになるということになるんですよ、なので、そういう文書を残すとか、そういう方法で蓄積していく方法はどうかという話を、ちょっとしたような気があるような無いような。本当に、そういうものが出来上がれば、本当に、残っていきますよね、さらにレベルアップもしていけるだろうし、非常に良い案だなと思いますね。

ケアマネジャーも、今度、研修会を年4回受けなければ、次の主任ケアマネジャーの更新ができないという制度になっていまして、その部分の研修の位置付けにもなってくるだろう

し、非常に、そういう意味ではひとつの良い案だなと、せっかくこういう色々な職種のメンバーが集まっているので、その辺は本当にあの、多岐にわたって専門性を持ったものができるので、非常に良い意見ではないかなという風に思います。

益井：鍼灸マッサージ連携会

修了証的な、ポイント的な、そういうものを貯めていけて、そういうものがインセンティブとして貯めていけて、何らかの講習を受けましたという形になるというのは、すごくモチベーションアップには繋がりますよね。

中村副部長

是非、ご検討をお願いしたいなという風に思います。
ほかに何かございますでしょうか。はい、齋藤さん

齋藤：老施協

道南老施協齋藤です。このあとのアンケートを見させていただいたんですが、今の話と繋がるんですけども、結局、あと2、3回してくると、顔見知りの方がかなり多くなってくると言うんですよ、個々だけではなくて、ほかの色々な研修に出ると、大体皆さんお知り合いの方が多くなってきて、それ以外の方は見受けられなくなってくるというのが現状だと思うので、やはり、ある程度、何年かの周期で原点回帰して、新人の方、新しく出てきた方たちにも、連携を、という風にしていったらよいのではないかと思います。

あとですね、「多職種研修会参加取りまとめ状況」というもので現れているんですけども、うちの道南老施協、大体施設の中で仕事をしていて、連携に関わるスタッフ自体は実際そんなには、少ないですね、現場の介護職が連携に関わるかということ、そうでもないし、多分これを見ていて、北海道の看護協会のところの、やっぱり看護師さんも、病院の中で働いて、患者さんに対してサービスをしている方たちというのは、多職種連携というのは、あまり頭に浮かべていないのではないかと思います。そこが、懇親会参加の数字に表れているのではないかなと思ひまして、うちは40枠といいながら、頑張っても28しか集められなかったんですけど、懇親会やっても、結局9名なんです、実はこの中でですね、無理やりうちのスタッフ5名を突っ込んでいます、ということは、他のところは、相談員さんとかもいらっしゃるんです、それでも、結局、社交性の問題なんですよ、やっぱり、こうやって顔を出して、例えば名刺を持っています、交換します、お酒を飲んで2時間おしゃべりします、というのを、体験したことが無い方、また、名刺を持っていない方というのが、まだどんどん眠っていると思うんです、そういう方もやはり、今後掘り起こしていかないといけないのかなと、結局本当にいつものメンバーの集まりになってしまわないのかなというのが、今回ちょっと、懇親会、特に今回うちの道南老施協の人数を見て、とても思いました。

例えば、懇親会という2時間枠の重いものではなくて、こういうものではなくて、名刺交換会みたいな言葉にしてしまって、そうすると、名刺を持っている職種ということ、例えば看護師さんでも、主任クラスとか、肩書を持って、実際に連携に協力できるスキルを持っている方、介護でもそうですよね、ある程度肩書を持っている方しか、名刺は持っていないと思うんです、私が知る限りでは、主要とするメンバーたち、次につながるメンバーの方たちも

出てきて、飲まなくても30分くらいで軽食、お菓子をつまみながら、パパパッと名刺交換できるくらいだったら、出てもいいかなという方もいらっしゃるのかなと思いました。以上です。

中村副部長

はい、ありがとうございます。

懇親会の方は、一概には言えないかなとも思うんですが、そのあたりは、名刺を持っている、持っていないというのも確かに、あるのかなという気も、しないでもないですが。

ただ、なかなか病院は、退院は必ずあるし、施設ってなかなか退所ってないじゃないですか、そのあたりではやっぱり、ちょっとこう、色が違うのかなという気はしないでもないですけども、やっぱり、看護師さんもきっとお忙しいんだと思います。

懇親会は、懇親会で、別で考えられればいいのかと思います。

どうですか、大体、一応この研修計画案に関して、船山さんから、また違った視点の案も受けましたけれども、そのあたり、大体、原案通りというところよろしいでしょうか。

異議はございませんか。(異議なし)

はい、それでは、議事(2)次年度以降の研修テーマについては、今のおりいきたいと思います。

それでは続きまして、(3)の、研修情報の一元化と提供の方法について、高柳幹事の方からお願いします。

高柳幹事

それでは、資料1の(3)の議事についてご説明いたします。レジュメの3ページになります。

(3)研修情報の一元化と提供の方法について、ア、研修情報の収集と提供の流れについて、でございます。

ポツの一つ目、毎月末に、センターから各団体(事務局)の研修担当者等に対して、研修会際の情報を照会し、センターのホームページへ掲載希望の確認を行います。この仕組みが一定程度浸透した後は、各団体から自主的に掲載希望をお申し出いただくこととします。

ポツの二つ目、掲載希望の手続きに当たっては、所定の書式、資料5になりますが、こちらを作成していただくほか、各団体が作成するチラシなどを提出していただくこととします。

ポツの三つ目、センターのホームページに、各団体から収集した研修開催情報を一元化して掲載し、情報提供します。

以上でございます。研修情報の収集、一元化と情報提供の流れにつきまして、ご協議をお願いしたいと思います。

中村副部長

はい、ありがとうございます。

資料5が研修予定、掲載申込書の案になっておりまして、センターのホームページに表示していくということになっているのだと思いますが、これに関しまして、皆さまのご意見はございますでしょうか。

これこそ、先程船山さんから出た、各協議会で初任者研修会と称して、自分の居宅（連協）は、どういうことをしているのかというのを、他の職種も集めてやるような、そういうような努力とかをしていくことが大事なのかなと思うのですが、こればかりは強要できるものでもないんですが、非常に各団体の手間暇にも係る部分になってくるのかなと思うのですけれども、もしそういうものができれば、さらに、多職種を知るところの、最初の初任時の研修というところでは、良いものになっていくのではないかという気もしないでもないですけれども。

水越：薬剤師会

この掲載研修予定は、例えば薬剤師会が主催をして行うのに、多職種の方もご参加どうぞという研修会のことですね。

中村副部長

そういうことではないですよ、広く、どういう研修でもいいんですけれども、多職種も参加できるような研修であれば、掲載してお知らせしていくという。

水越：薬剤師会

そうすると、薬剤師会が主催で無くても、こういう話がありますよという形で載せるということですか。

中村副部長

薬剤師さんが主催ではないという。

水越：薬剤師会

要は、広く言うと、例えば、メーカーさんから提供されることもあります。

中村副部長

なるほど。

水越：薬剤師会

実は、小さな会はあつたりするのですよね、訪問看護師さん1名、医師1名、薬剤師8名でやりたいですと、メーカーから私の方に来て、やる場合もあるんですよ。それは小規模な例で、まあ、そういうパターンもあるということで、私たちの研修をバックアップしてくれる団体があれば。

中村副部長

そのあたりはどうですか。はい、船山さん。

船山：実務者協議会

多分これですね、他で主催しているようなものを載せてしまうと、窓口というか、受付窓

口がですね、これ、関係ないところでの動きになるので、申し込む時に結構困ると思うんです、これ書きますよね、本来メーカーさんが主催するということは、薬剤師さんに集まって欲しくてやっているようなことを、広くとらえて、じゃあ私たちも、ということになった時に、結構色々、問題が出ると思うので、多分その、それぞれの団体が主催しているようなものをまず載せるということで、それでいいのではないかと、一番最初は。一番の目的というのは、こんな良い会、色々なところでやっているんだけど、その情報が点在していてわからないということ、ある程度このホームページで見れるというのが、まず一番良いところだと思うので、あまり風呂敷を広げないで、まずは自分たちの団体に主催するような内容の研修をまず載せるという、まずファーストステップはそれで、次のステップとして、もしかしたらそういう、他団体に、こういうものを受けた方がいいと思うものを載せるという方がなんとなく、そして問い合わせも皆さんのところに来たりとかして、面倒な話になってしまうのかなと、ちょっと自分で言っていて何なんですけど、ちょっと小さいところはね。

益井：鍼灸マッサージ連携会

今、水越先生も仰っていた中で、例えば薬剤師会のクローズの研修会、こういうのも載せるのかということをお願いしていたのかと思うんだけど、僕は、載せて欲しいと思うんですよ、多職種が入っていけないようなクローズの、例えば薬剤師会、歯科医師会のメンバーだけの研修会もありますよというのを載せていただければですね、そこを外そうとか、ダブってしまうので、少し時期をずらそうとかという目安にもひとつなると思うので、オープンだけではなく、その会のクローズのものも、載せていただければいいかなとは個人的には思うのですが。

船山：実務者協議会

結構数が多い。

水越：薬剤師会

数はすごく多い。どういう団体がどういう研修をやっているのかは、医師会は、とか。

益井：鍼灸マッサージ連携会

見たいですね。

船山：実務者協議会

例えばうちの方で研修会開こうとなると、ソーシャルワーカーの研修とぶつかってしまうと、ずらしたいという、確かにそういうのが分かればいいなというのはありますね。

中村副部長

もし、事務局というか、センターさんの方で手間暇がかからないのであれば、載せていただくのに越したことは無いですが。

水越：薬剤師会

これ、毎月末にやるんですよ。

佐藤幹事

あの、当面の間はという形にさせていただきます。基本的には、最終的には自主的にご応募といったら変ですが、申込をいただくという形になれば、したいなどは思っています。

どの研修会を掲載するかしないかは、ホームページに載せるか載せないかは、各団体さんの判断にもお任せするところにはなるのですが、先程からご意見が出ておりましたように、こういう方々にも参加してもらいたいんだという、参加者を求める場合と、せっかく企画したのだけれども、参加者が分散してしまうということを避けたい場合と、どちらをもってもですね、活用できるような形だと思っております。

そういった意見が今までもありましたので、一応、現段階ではカレンダー式になってどこに何の研修会が入っているか、見えるような形にしたいなというところで。

水越：薬剤師会

常に全部情報収集していると、途中で、この情報は要りませんとはならなくなってくる。

佐藤幹事

そうですね。そこで、ある意味そこに早めに載せておくと、他の団体さんがその日を避けてくれるというようなものにもなるのかなと。

水越：薬剤師会

情報収集として、ここに何の研修がありますよという段階までだったら大丈夫だと思うのですが、内容まで全部載せるとなると。

中村副部長

そうなってくると、2本立てで行くしかないですよ、一覧できるカレンダーと、あとは、参加してもいいですよというものを別にしておかないと、船山さん仰ったように、もたなくなるのではないかなと思うし、直接その、ハコレコさんでしたっけ、ハコレコさんの方に直接やっつけていいものだったら、センターの手前は分からないだろうけれども、向こうは技術者だから、載せるくらいはピピッとすぐ載せれると思うんですよ、だから、そっちはそっちにしてしまっただけであくまでもアレする、センターの方で関わっていくというやり方とか何か一工夫しないと、なかなか、どうなんでしょう。

佐藤幹事

ハコレコさんとの契約の兼ね合いもありますので、毎月ハコレコさんの方でそういう形でアップしていただくというような契約には、今のところなっていないですね。なので、センターの方でアップしていくという形になっています。ですので、皆様のお心遣いもいただきながらですね。

水越：薬剤師会

最低ラインが、こういう研修のところ、薬剤師会こういうところで研修やっていますというのを載せるのを決めておかないと、どなたでも研修会参加できませんということを、自

主的に載せていくと。

高畑：訪看連協

この申込用紙の中で、対象者がわかるようにして、対象者が別にぱっとわかるようにしてはどうでしょうか。

中村副部長

ああなるほど。

佐藤幹事

そうですね、カレンダー式のなかで、そこまでの区分けができるかどうかは、ハコレコさんの方に確認が必要にはなってくるのですが、一応その、カレンダーからその研修のページに飛ぶような形で、詳細が書いたページに飛ぶような形で、考えていました。そのほかトピックスで、研修ごとに、新しい順にはなっていくと思うんですけども、ニュースという形で研修の案内が載るものと、あと、研修のページというものがあって、そのページの中から見ていくこともできるというような3パターンでの掲載方法にはなるんですね、ただそこが、うまい具合にぱっと見た形で、それが参加できるものなのか、できないものなのかの区分けができるかどうかをですね、ご相談させていただく形になると思うんです。まだそこまですすね、ホームページも出来あがっていないものですから、今お話ししているのは、すいません、あくまでもお願いしているものは、こういう形でということで、ハコレコさんもある程度努力をしますというお返事をいただいている内容のところになっております。

船山：実務者協議会

なんかこう、欲張りすぎてもですね、やっぱり、参加できるものだけを載せていく方がですね、なんとなくいいような気がするんですよ。

中村副部長

29年度はその形の方が、いいんじゃないでしょうかね。関わっている団体で、多職種も参加してもいいような研修会をアップしていくというところで、当初スタートしていきながら、30年度には2本立ての素晴らしいものができるという風にしたいと。

船山：実務者協議会

何か我々で、自分たちで打ち込んでできるという風になれば、センターの時間もとらないだろうし、そういう仕組みがない限り、センターの負担がかかりすぎるような気がしています。

中村副部長

それでなくてもね、センターの周知啓発をしなければならぬ年度にもなるでしょうし、なかなかそこまではできないところではあるのかなという風に思います。

当初、どうですか皆さん、初年度はそういう形でもよろしいでしょうか。関わっている団体

の、多職種も参加できる研修をアップしていくということで、スタートしていければいいのかなという風に思います。最終的には、皆さんが仰っているような、ぱっとね、競輪開催日のような、ああいうカレンダーでピットとできれば、もう、言うことは無いという風に思います。

それでは、議事項目の(3)に関しましては、原案通りということによろしいでしょうか。(異議なし)

はい。それでは続きまして、議事の(4)になります、「函館市在宅医療・介護連携マップ」、この活用についてということで、説明をお願いします。

高柳幹事

資料1の(4)の議事について説明いたします。昨年、医療・介護資源に関しまして、リスト化をさせていただきましたが、それをマップ化したツールが間もなく完成いたします。このマップの説明に関しては、本日プロジェクターで実際にご覧いただきたいと思います。

〈プロジェクターによるマップの概要と操作・使用方法の説明：長谷川幹事〉

中村副部長

はい。これに関しまして、皆様の、まあ、出来あがっているものなので、感想になってしまおうでしょうけれども、ご感想はありますでしょうか。

船山：実務者協議会

元のデータは。

長谷川幹事

昨年も、各医療施設さんの方には、アンケートをお配りしてまして、そこからの調査内容ですね。

船山：実務者協議会

なるほど、例えば変更があった場合には。

長谷川幹事

直接こちらの方に連絡していただくような注意書きが書かれることになる予定です。

船山：実務者協議会

ちょっと、現実とは違うような施設が若干出てきたので。アレっと。在宅医療を提供するということになっているということですよ。

中村副部長

訪問診療のことですか、私もそういう捉え方だったんですけども、これ、単位違うのではないですか、往診ではないですね。

長谷川幹事

往診と訪問診療と、2つになってますね。

船山：実務者協議会

訪問診療というと、定期的に、往診というと、呼ばれたら行くというもので、往診に「行けるよ」といっているところが。

中村副部長

行かない病院あるよ。

長谷川幹事

そうですね。ただし、かかりつけの患者さんだけ往診に行きますとか。

一同

ああ。

長谷川幹事

ただし書きに入っていると思います。

船山：実務者協議会

なるほど、わかりました。結構です。

中村副部長

ケアマネジャーからすれば、「やってないよ」という。

長谷川幹事

備考の欄に、色々注意書きが書かれているかと思います。

薬局さんの方は、在宅に携わっている薬局さんをリストに掲載するということになりますね。

医療・介護関係者の方と、一般市民の方もご覧になることができます。普通にホームページで見ることができます。

岩井：歯科医師会

歯科の方は、公表していませんが、その辺は。「在宅歯科医療連携室にご相談を」という趣旨のことが、リストのときは表示されていたが。結局、歯科ではそこに連絡してもらうことで、訪問歯科診療できる歯科をご紹介するという流れ。

長谷川幹事

このカテゴリーの中には、今回のハコレコさんとの契約の中では、歯科さんのほうは入っていませんでしたが、別のリンクのところに載せることが可能なので、そこに、リンク

を貼りつけて、そこから飛ぶということになる予定です。

岩井：歯科医師会

それでいいです。

益井：鍼灸マッサージ連携会

ということは、今後、歯科の体制が整った時に、入ってくるということは、今後もないということなんですか。契約の問題で。

長谷川幹事

ただ、今年度に関しては、ということで、今後の検討になると思います。

益井：鍼灸マッサージ連携会

どんどん盛況に、良くなっていくということはあるということ。

例えば、我々鍼灸は、まだ、きちっとした体制が整っていない、これから在宅の方で提供できる体制が整いましたという風になった時に、関連サイトということで貼りつけてもらうということは、これは可能ですか。

長谷川幹事

はい。

益井：鍼灸マッサージ連携会

いつから運用ですか。

長谷川幹事

2月からです。マップ機能のみは、2月1日からですけれども、センター自体のホームページは4月以降を予定しています。ホームページの中のマップ機能になるんですけれども、そのほか、例えば研修のご案内だとか、その他のお知らせだとかいう部分に関しては、4月以降ですね。

高畑：訪看連協

ここを直してほしいという、テスト期間を設けたらいいと思う。2月から4月。それぞれの思いがあるから。皆さんの気持ちというものがあるから。

長谷川幹事

マップ機能に関して、内容は修正できます。

調査して、その内容を確認していただいたものが掲載される内容になっていますので。

水越：薬剤師会

多分、自己申告でしかないですね。修正は随時で。

長谷川幹事

あとは、この中で変更があったり、間違いがある場合は、センターの方にお知らせくださいということで、お知らせは出ます。あと、調査内容に関しては、1年に1回調査をし直してという風には考えています。

中村副部長

なんか、在宅医療、入院医療って、おかしいですよね。で、介護が居宅系、居住系という分け方になっているんですけども。

長谷川幹事

入院医療と書いてあるのは、在宅医療の後方支援をしている病院さんが掲載されることになりますね。病床機能が入っている形になります。

中村副部長

入院のベッドを持っている病院ということですか。

長谷川幹事

そうですね。

中村副部長

「病院」ということですよ、クリニックじゃなくて、病院。

船山：実務者協議会

在支診の受けの有床診ということでは。

長谷川幹事

そうですね、後方支援をしますという病院さんです。

船山：実務者協議会

在宅療養支援診療所になる時に、後方の、入院ベッドがある病院と契約しなれないので。その契約をしている病院だということだと思っただけですよ。ちょっと、違うところもあると思うんですけども。

長谷川幹事

ここで掲載されている期間については、「よくある質問」というところの、Q&Aの部分に、こういう施設が載っていますという注意書きは出ます。あくまでも、その時々病院さんの状況により、情報の内容と違うことがありますという注意書きも載ります。

中村副部長

一般市民も見ることができるということで、活用されていけばいいなということはありません。

すね。情報が変わった場合には、センターさんの方に、変更しましたということを伝えれば
いいということですね。

長谷川幹事

はい。そうです。

中村副部長

担当者などが表示されている場合は、そのようなことができるということで。

それではよろしいですか、議事の（４）は、感想をいただいたということで、終わりたい
と思います。

本日の議事は以上ですが、全体を通して、何か皆さんの方からありませんか、よろしいで
すか。（異議なし）

それでは、３のその他に移りたいと思います。幹事からお願いします。

佐藤幹事

「関係職種の紹介」について、ご説明をさせていただきたいと思います。

本日お配りしております、関係職種の紹介の資料をご覧ください。

まず始めにですね、昨日行われました退院支援分科会の中で、はこだて入退院支援連携ガ
イドが、分科会の皆様からご承認いただきましたことをご報告させていただきます。また、
このガイド内の関係職種の紹介のページの作成にあたりましては、皆さまからご協力いた
だきましたことを、この場をお借りしてご報告申し上げます。ありがとうございました。

それでは、皆さまからいただきましたご意見について、簡単ではございますが、ご報告さ
せていただきます。

まず、益井メンバーの方からですね、職種のところ、鍼灸マッサージ師と記載をさせて
いただいていたんですが、ここを、鍼灸師・マッサージ師ということで変更のご希望があり
まして、そのとおりに変更しております。

主に働いている場所、機関におきましても、病院・整骨院・鍼灸院・施設とさせていただ
いてたんですけれども、病院・整骨院・鍼灸マッサージ院・施設という形に変更してありま
す。仕事内容・役割につきましても、ご意見いただきまして、一部修正をしております。

老施協の齋藤メンバーの方からは、管理栄養士の内容に関しましてご意見いただきまして、
職種の欄を、管理栄養士・栄養士とさせていただく形でご了承いただいております。同様に
仕事内容、役割についてもご意見いただき、一部修正しております。

ケアマネジャー、介護スタッフ、相談員についてもご意見いただきまして、仕事内容、役
割の部分を一部修正しております。

柔整の齋藤メンバーと、包括連協さんの方から、仕事内容、役割、ご意見いただきまして、
一部修正を加えております。

変更いたしました文章の詳細に関しましては、割愛させていただきますが、本日お配りし
ております資料にてご確認いただければと思います。

以上が皆様からいただきましたご意見により修正した内容になります。私の方からは以上
となります。

中村副部長

はい、関係職種の紹介について、幹事の方から説明がございました。
これにつきまして、皆さま何かございますか。

水越：薬剤師会

薬剤師の仕事内容・役割のところで、「～また、ご自宅に薬を届ける～」を、「～また、医師の指示に基づき、ご自宅に薬を届ける～」と修正してほしい。普通に宅配ができるように感じてしまうおそれがある。宅配は、基本的にはできる範囲で行うもので、医師の指示があつて行うものなので。

中村副部長

はい、これ、修正はできるのか。

佐藤幹事

修正可能です。文章としては、「主治医の指示により」ですか。

水越：薬剤師会

主治医でなくても、2、3箇所から薬を貰っている者もあり、「主治医」ではなく、「医師の指示」でいい。

佐藤幹事

了解いたしました。

中村副部長

よろしくお願いします。ほか、皆さんよろしいですか。

北村：看護協会

ひとついいですか。看護協会が2月で役員改選になりますので、私は今日までになります。ただ、役員の方が決まり次第、お知らせします。

中村副部長

はい、ということでございます。ありがとうございます。
それでは、次回の部会についてお願いします。

高柳幹事

次回の部会につきましては、来年度以降に改めて日程等を各メンバーの皆様にお伺いして開催しようと考えておりますので、ご了承願いたいと思います。

中村副部長

はい、ということで、連絡いただけるということです。

それでは、その他も含めまして、全体を通して、皆さまから何かございませんでしょうか。

よろしいですか、それでは、これを持ちまして、他に無ければ、本日の議事は全て終了したということで、進行を事務局にお返ししたいと思います。

小棚木医療・介護連携担当課長

中村副部会長どうもありがとうございます。以上をもちまして函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会第4回会議を終了します。皆様お疲れ様でした。